

令和6年度「南城市幼小連携事業」活動記録簿

幼小連携事業幼児教育施設公開保育＆合同研修会	
実施日時	令和6年8月14日(水)
事業の名称	幼小連携事業 幼児教育施設公開保育＆合同研修会 公開保育：愛地友遊保育園 合同研修会：船越小学校図書室
参加者	保育施設16名 小学校教諭13名 中学校教諭5名 行政7名 合計41名（小中校の経年研教諭参加）
1 内容 ○公開保育⇒0歳児～5歳児 室内や園庭で好きな遊びを展開し、子どもの「やりたい！」に寄り添っている。 <リズム遊び、色水遊び、斜面転がし、泥でお絵かき、固定遊具で遊ぶ等> ○合同研修会（船越小学校図書室） ・保育の振り返り・活動の流れ説明 ・6グループに分かれKJ法で協議を行う。 協議の視点⇒①幼児の「主体的な姿」や「遊びこむ姿」②環境や教師の援助で良かった所 ・指導助言：琉球大学教育学部講師 宮城利佳子氏 ・スタートカリキュラムの取組実践事例紹介：大里北小学校一年担任 金城愛梨教諭 園長挨拶・保育の振り返り 協議：熱く語り合う 指導助言：宮城利佳子氏 実践を語る：金城愛梨教諭 2 成果 ・幼・小・中の教諭が共に保育について語り合うことで協議内容に深まりが見られた。 小中教諭の保育を見る視点から幼児教育施設の保育者が学び、相互の教育を知ることにつながった。愛梨先生の事例報告から保育施設での遊びを通しての学びの繋がりが分かった。 3 指導助言：宮城利佳子氏 ・子どもの経験は限られているので保育者から提案することも大事。すぐにゴールに辿り着かず失敗することもある。園は試行錯誤できる時間があるので探究させてほしい。 ・遊びの充実→要領に基づくように援助→足りてないところはないか、何が必要かを考える。 4 愛梨先生の実践から ・スタカリから国語、算数と他教科へ繋げ、教科を横断する取組紹介⇒学習指導要領へ位置付け「大きなかぶ」音読劇や学校全体を巻き込んだいかだ作り⇒子どもがわくわくして学んだ。	

